

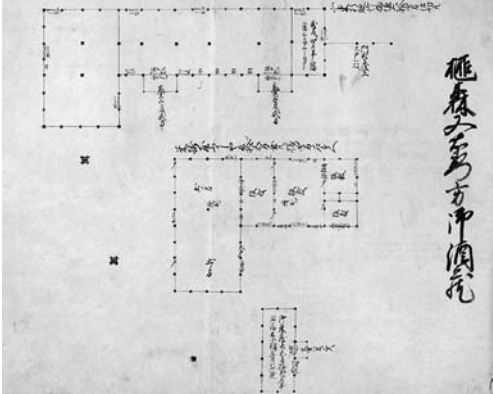
第15回 「酒」 地域のたから 自慢の逸品

● 仙台市博物館学芸員 水野 沙織

仙台城下の「酒」事情

国税庁が発行している統計書「酒のしおり（平成25年度）」を見ると、大人一人当たりの清酒の消費量は東北・北陸地方が突出しています。どちらも米どころであり、醸造に適した風土に恵まれて、全国区の銘柄が多くあります。

時代は遡って、仙台藩領の名物・名品を番付にした『仙台領高名競角力見立』（文政一二年・一八二九）には、江戸や仙台周辺で有名なものとして「美食」「大酒」、数が多いものとして「酒屋」が登場します。しかし、当時の江戸で人気があったのは「下り酒」といわれる上方（大坂・京都・奈良）で醸造された清酒。米の名産地・仙台藩で造ら



仙台城にあった榎森家の造酒屋敷の平面図（「仙臺藩封内神社佛閣等作事方役所修繕二属スル場所調」、宮城県図書館蔵）

れた酒は「地産地消」、大酒飲みで知られた仙台藩の人々が飲用していたようです。数の多さで知られる「酒屋」は、主に藩主や藩用の酒を造る「御酒屋」、特定の神社で使用する酒を造る「御神酒屋」、酒株を取得して商売する市中の「酒屋」に分けられ、藩の規制下に置かれていました。

一方で、自家用の濁酒「どぶろく」の製造は認められていました。しかし、凶作時には市中の酒屋と同様に酒造を制限されました。

酒飲みの代表 伊達政宗

仙台で有名な酒飲みといえば、仙台藩初代藩主伊達政宗です。酒は朝晩の食膳に始まり、儀式、家臣の労い、大名同士の付き合い等、藩政・外交・生活の必需品。ここで政宗が政宗を「酒豪」と称さないのは、政宗の書状には「大酒給ひ酒を過ごし」など、手紙を出すのが遅くなった理由を深酔いとすることもが圧倒的に多いからです。

政宗が生きた江戸時代初期は、最先端の清酒の製造技術を持っていたのは南都（奈良）で、酒の原料である蒸米と麴米の両方に精白米を使って造られた「諸白」が珍重されていました。政宗は、仲の良い大名・津藩主藤堂高虎や幕府老中・土井利勝に南都から輸送された新酒を贈っています。また、新酒と古酒を一緒に贈った書状も残されており、お互いに利き酒を楽しんでいるようです。

仙台城で諸白を造る

政宗は、南都の酒を飲むだけでは満足しなかつたようです。南都から諸白の杜氏・又五郎（又右衛門）を招き、なんと仙台城の一角に屋敷を与えて、諸白を造らせました。政宗に又五郎を紹介したのは、飲み仲間の大名・柳生宗矩です。遠く離れた仙台に運ばせるより、造ってしまおう、と考えたのでしよう。当初は自分用だったと思われませんが、家族のため儀式のため、と用途が拡大していったようです。政宗は「来年の酒の仕込みのため米三百石を渡し、又五郎の求めに応じて米を渡すように」と指示を出すなど、又五郎の酒造を支援しています。

後に、又五郎は、出身地である榎森を苗字として名乗り、榎森家は江戸時代を通して藩用の酒を造る「御酒屋」を勤めました。また、六代目の与左衛門は享保一七年（一七三二）、酒造の主流となりつつあった寒造りの技術を習得するため、南都へ修業に出ています。「御酒屋」といっても、時代の流行や、藩主の好みにあわせた酒を実現するため、日々精進していたようです。

さて、政宗が造らせた仙台産の諸白、寛永元年（一六二四）には瑞巖寺に「仙台之諸白、一樽進らせ候」と献上しています。また、徳川家光の乳母・春日局にも、「国の酒、少しですが進上します、ご賞味ください」と、南都ブランドではなく、自国仙台産を強調して酒を贈っています。政宗が贈答品としているのは、珍重された仙台藩産の冬鳥、鮭などの海産物、大名の狩りに欠かせない鷹など。仙台城で造られた「諸白」も、政宗自慢の逸品に到達したのでしよう。

政宗は、南都の酒を飲むだけでは満足しなかつたようです。南都から諸白の杜氏・又五郎（又右衛門）を招き、なんと仙台城の一角に屋敷を与えて、諸白を造らせました。政宗に又五郎を紹介したのは、飲み仲間の大名・柳生宗矩です。遠く離れた仙台に運ばせるより、造ってしまおう、と考えたのでしよう。当初は自分用だったと思われませんが、家族のため儀式のため、と用途が拡大していったようです。政宗は「来年の酒の仕込みのため米三百石を渡し、又五郎の求めに応じて米を渡すように」と指示を出すなど、又五郎の酒造を支援しています。



国宝 吉祥天女像 奈良時代 薬師寺蔵 撮影：飛鳥園

国宝・薬師寺の名宝、仙台限定特別公開。
東日本大震災復興祈念特別展
きちじょうてんによ
国宝 吉祥天女が舞い降りた！
—奈良 薬師寺 未来への祈り—
6/21(日)まで
【観覧料】一般：1,300円 大学・高校生：1,000円
小・中学生：600円

■主催：「奈良 薬師寺 未来への祈り」実行委員会（仙台市博物館、NHK仙台放送局、NHKプラネット東北）、法相宗大本山薬師寺、河北新報社

特別展 ご覧あれ 浮世絵の華
—歌麿・北斎・広重 平木コレクションの名品—
7/17(金)~9/6(日)
●前売券好評発売中(7/16まで)●
【観覧料】
一般：1,200円(前売1,000円)
高校・大学生：900円、小・中学生：500円
江戸の華、揃い踏み!!
■主催：「浮世絵の華」仙台展実行委員会（仙台市博物館、ミヤギテレビ）、公益財団法人 平木浮世絵財団



重要美術品 喜多川歌麿「芸者亀吉」 公益財団法人 平木浮世絵財団蔵

開館時間：午前9時～午後4時45分（最終入館午後4時15分）●6月の休館日：毎週月曜日 ●7月の休館日：7月20日をのぞく毎週月曜日、7月21日（火）
仙台市博物館 TEL:022-225-3074 〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地（仙台城三の丸跡） http://www.city.sendai.jp/kyouiku/museum/